「めざせ 1000 万人！ みんなで星を見よう」「プラネタリウムへ行こう」

イラスト／藤井龍二

石　坂　千　春
〈大阪市立科学館　〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-1〉
e-mail: 10-million@astronomy2009.jp,　planetarium@astronomy2009.jp

1. 「めざせ 1000 万人！ みんなで星を見よう！」

日本では 1 年間に延べ何人が「星」を見るのだろうか？ どうしたらその数を知ることができるだろう？

IYA2009 日本委員会の主催企画の一つ「めざせ 1000 万人！ みんなで星を見よう！」では，星を見たことをホームページから報告してもらうことで，1 年間にどれだけの人が星を見るのか，直接集計しようと考えた（無茶である）．そして，国民の 10 人に一人は星を見てもらいたい，星を見せる！ という意気込みで「めざせ 1000 万人！」とした（さらに無茶である）．

だが「めざせ 1000 万人！」の真のねらいは，誰でも世界天文年に参加できるところにある．星を見る方法は問わない．「星」にはプラネタリウムや天文講演会なども含まれる．「宇宙を見ようとする心」，「星を見たという実感」を，広く一般市民にもってもらうことが目的なのだ．およそ 3 カ月ごとに，みんなで一斉に天空を見上げるキャンペーンも設ける予定である（近々には，7 月 22 日の日食）．

学会会員諸氏はもちろん研究で「星」を観測することもあろうし，大学の一般公開などで観望会を開くこともあろう．また趣味で星空を見上げる人もあろう（現実の「星」には全く興味がないという方も中にはいらっしゃるだろうか…）．ぜひ本企画に賛同いただき，ご自分が星を見たり，誰かに星を見せたりしたときには，報告を上げてもらいたい．

図 1 「めざせ 1000 万人！」ホームページ．
http://star2009.jp/

このプロジェクトでは，プラネタリウム館や公開天文台を訪れた人数も月ごとに組織的に集計している．渡部潤一実行委員長のもと，47 都道府県に延べ 50 名を超える調査担当員を配し，全国 500 カ所以上ある「星を見せる施設」の利用者を片端

から集計しているのだ．

この「めざせ 1000 万人！」ホームページでは，全国から寄せられたレポートをもとに，いつどこで星を見た人がいるのかが地図上に表示されるようにもなっている．離れていても，地球は一つ，夜空も一つである．空を見上げ，広大な宇宙の中での地球人としての一体感を感じてもらえればと願っている．

2. 「プラネタリウムへ行こう！」

プラネタリウムは一般市民にとって最も身近な「宇宙への扉」である．プラネタリウムは子ども向け，ギリシャ神話だけ，だと思われることも多いが，天文学の教育普及に大いなる可能性を秘めた場所でもある．世界天文年 2009 の目的は「一人ひとりが夜空を見上げて，宇宙，地球そして人間に思いをはせる」ことであるが，これはプラネタリウムが目指していることそのものでもあるのだ．実際，最新の投影機器の威力はすさまじく，映像への没入感を活かして，難しい天文学上の概念を直観的に理解できるよう表現できる場合もある．ギリシャ神話ではなく，アジア起源の星の話を取り上げる番組もあり，観覧者参加型の施設もある．もはや従来のプラネタリウムという概念ではとらえられないような施設も多くなってきた．

日本にはおよそ 300 館のプラネタリウム館があり（米国に次ぐ世界第 2 位），年間 600 万人の観覧者がある（これは推定値であるが，前述の「めざせ 1000 万人！」プロジェクトで網羅的に集計し，2009 年末に信頼度の高い数値を公表する予定である）．今年，全国のどこのプラネタリウム館でも，ガリレオのこと，望遠鏡のこと，など世界天文年に関係するプラネタリウムや展示，イベント

図 2　全国のプラネタリウム館マップ．

を実施しているはずである．

そこで学会員諸氏にお願いがある．ぜひ近くのプラネタリウムに足を運んでいただきたい．そして，プラネタリウム番組の監修者として，天文講演会の講師として，あるいは教育普及イベントの企画者として，プラネタリウム館に協力いただけないだろうか．昨今の行政事情から天文学に精通する専門職員を配置できない施設も多い．大学や研究機関との連携を通じて，プラネタリウム館が現代のガリレオたちの活躍を紹介し，未来のガリレオたちを育てていく場となれば，この上ない喜びである．